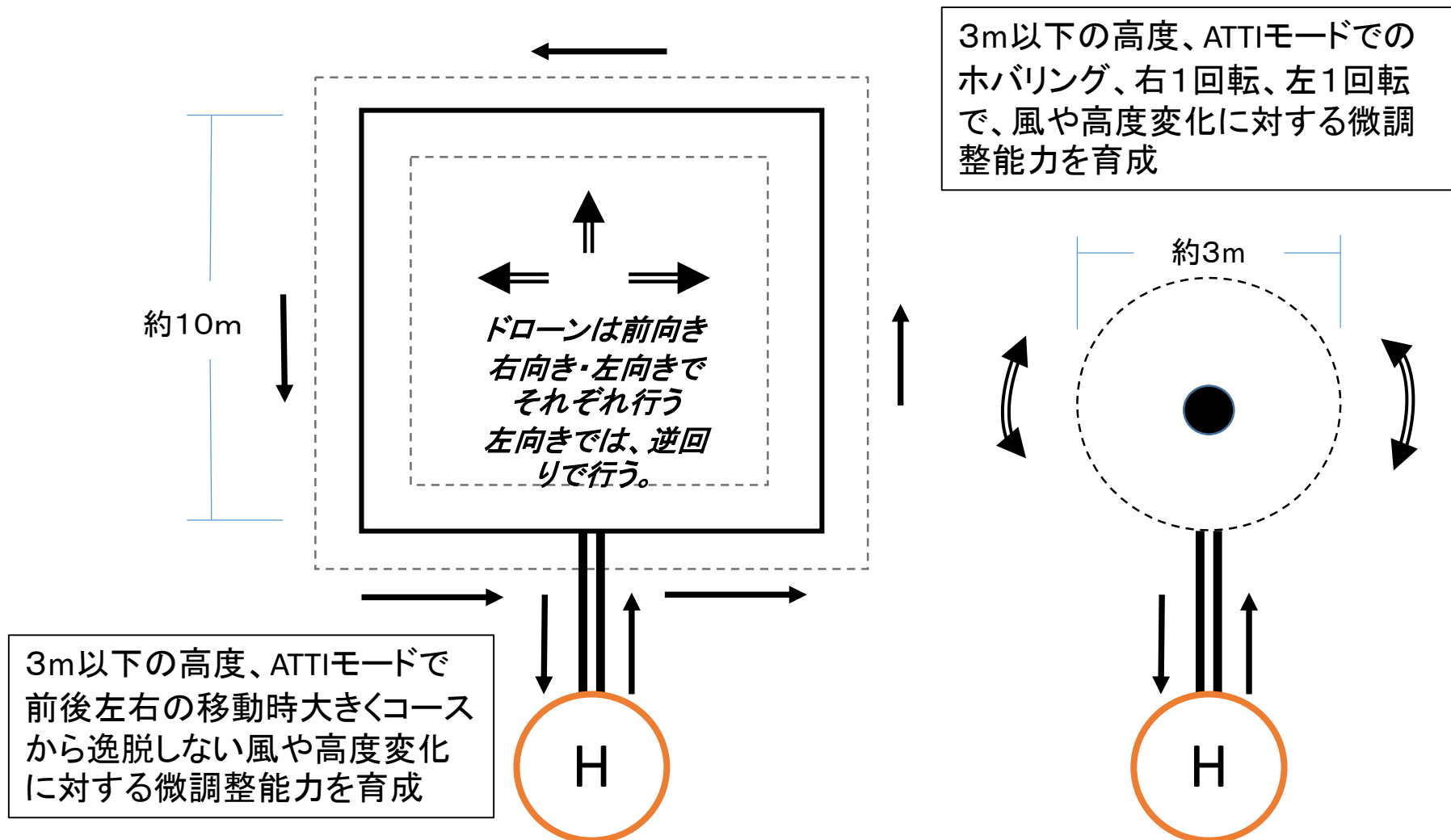


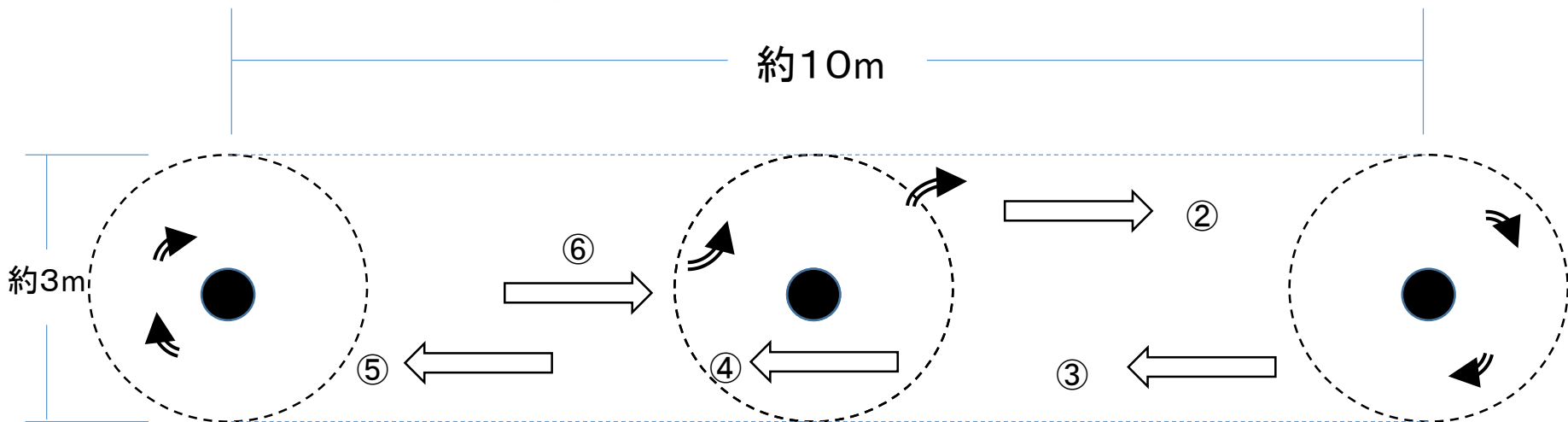
操縦技能実技等合格基準

- JUIDAが認定スクールに提示している合格基準に準じて、実技試験は、屋外飛行場に於いて次の項目を評価します。
 - ①試験開始安全確認 ②離陸の安定性 ③ホバリング ④エレベーター操作
 - ⑤エルロン操作 ⑥ラダー操作 ⑦着陸は適切か ⑧複合舵操作 ⑨指示対応
 - ⑩一定速度維持 ⑪一定高度維持 ⑫速度制限 ⑬あて舵操作
- 修了試験については、原則、機体はノンGPSモード、高度3m以下でコース逸脱は左右1.5m以内、回転半径1.5m以内を合格の基準としています。(風環境等は評価上考慮致します。)
- GS ProやDroneDeployを使った自動飛行、目視外飛行については指定若しくは申告したミッション達成について審査致します。
- 操縦技能座学科目及び安全運航管理者のペーパー試験については、JUIDA合格基準(21/30、14/20)を適用します。
- 全ての試験は不合格の際には、再試験を行います。

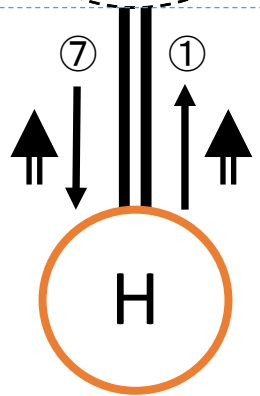




操縦技能実技修了試験準備練習課題



3m以下の高度、ATTIモードでの回転時や移動時に風や高度変化に対する微調整能力を審査するが、特に回転時やドローンの向きが操縦者と異なる際の調整方向を間違えないこと、あて舵を重視。
④では、一旦停止して、10秒間ホバリングし、機体の状態確認、バッテリー残量確認、位置補正を行う。

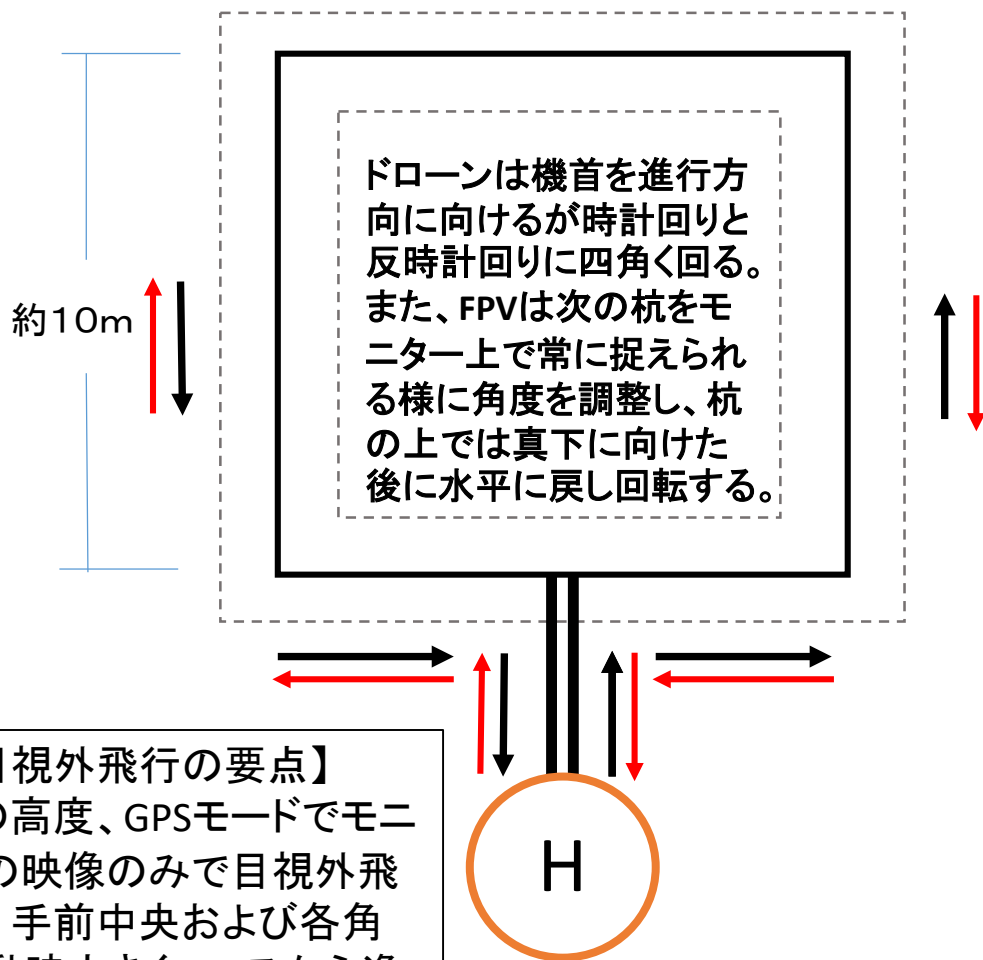


↑
ドローンの向き

操縦技能実技の修了試験



名古屋守山ドローンスクール



【目視外飛行の要点】
約3mの高度、GPSモードでモニター上の映像のみで目視外飛行する。手前中央および各角から移動時大きくコースから逸脱しない微調整能力を育成

【夜間飛行の要点】
約3mの高度、GPSモードでアーム上と機体後部のLEDの灯火および杭の上部に設置された明かりを確認しつつ夜間飛行する。機体灯火と明かりの相対位置を認識し大きくコースから逸脱しない微調整能力を育成

操縦技能実技夜間・目視外飛行課題